

事業実施の目的

複数の保育所・幼稚園等から1つの小学校に入学する、比較的規模の大きい地域においても、児童が幼児期の教育を通じて身に付けたことを生かしなが
ら、安心感をもって主体的に自己を発揮し、小学校生活をスタートできるよう、教職員の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等の理解促進や、顔の見え
る関係づくりに取り組む。その中でモデル小学校区の架け橋期のカリキュラム作成までの取組過程を、県内の他地域にも広げることを目的とする。

事業内容・成果
(R4年度)

1. 主な取組内容について

【架け橋期のカリキュラム開発会議】年4回実施

○開発会議メンバー

（大学教授3名、各園・校長6名、市教育委員会1名、市保育幼稚園課1名、県教育センター1名、県保幼小アドバイザー2名、学校保護者1名）

○会議内容：めざす子供像の共有・各発達段階における具体的な子供の姿の共有、カリキュラム開発に向けての提案、次年度に向けてフェーズの確認など

【架け橋期のカリキュラム】⇒遊びや学びのプロセスで大切にしたい経験を中心にした小学校・園のカリキュラムを作成

○カリキュラム作成にあたっては、全ての園・学校の代表者が、校区内でめざす子供の姿を、今の子供の姿をもとにして語り合うことからスタートした。めざす子供像は、地域のコ
ミュニティスクールによる教育方針を軸とし、その中で、育成を目指す資質・能力について発達段階ごとに具体的に姿を出し合った。さらに実務者による連絡会にて、共通の視点か
ら遊びや学びのプロセスで大切にしたい経験を幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりにしながら、具体化し、カリキュラムを作成した。また、指導上の配慮事項として先
生や保育者の関わりや環境構成、家庭や地域との連携、行事等を小学校・園のカリキュラムの両方に位置付けるようにした。

【園・小学校における体制】

○5歳児・小学校1年生担当を中心に年間5回の連絡会を実施した。「身体を使った遊び」「秋の自然を使った遊び」などテーマを設定した中で実践を報告したり、実際に行
う交流会に向けての教材研究を行ったりするなど、実務者レベルで作成過程にあるカリキュラムとの関連をはかりながら会を重ねた。第5回目の連絡会では、次年度実施するス
タートカリキュラムの検討や年間指導計画の作成を行った。

【自治体における体制】

○県幼保支援課、高知市教育委員会就学前教育班、高知市こども未来部保育幼稚園課が連携し、各会の運営を進めた。

○県教育センターが主催する保幼小接続の研修会にも参加を呼びかけるなどし、モデル地域外にも取組を発信した。県の幼保支援アドバイザーや保幼小連携アドバイザーが各
園・校の保育や授業を参観し、実践者との振り返りを通して、教育・保育内容の質の向上を図る取組を重ねる体制を整えた。

○高知市は架け橋期の取組を収録したDVDを作成し、市内の学校・園に配付した。

2. 主な成果について

○設置者、施設類型を超えて「顔の見える関係」が構築され、気軽に意見交流ができるようになった。

○県、市が連携することに加え、市の学校主管課と保育幼稚園主管課の連携がこれまでよりも深まった。

○5歳児、1年生担当の先生を中心に互いの実践がどのように繋がっているかについての理解が深まった。保育者からは「自分たちの実践が小学校にどのように繋がっていく
かを意識することの大切さを実感した」「小学校・他園との意見交流を通して自身の実践を振り返る良い機会となった」などの意見があった。また、1年生担任からは、入学前
にたくさんの経験を積んできていることが分かったので、全てを教師が準備するのではなく、子供の経験に寄り添って学習を進めることの大切を学んだ」「子供の成長とともに、自身の
意識の変容があり、とてもやりがいのある1年であった」などの感想があがってきている。

事業実施
地域・
協力園校
(R4年度)

【実施地域】 高知市立春野東小学校校区
【協力園校】 高知市立小学校（1校）
高知市立保育園（2園） 私立保育園（1園）
私立幼稚園型認定こども園（1園）
私立幼保連携型認定こども園（1園）

今後の目標
(R5年度)

今年度はモデル校でのカリキュラムの実施・検証を行うと同時に、来年度以降、
学校・園が主体的に架け橋期のプログラムの改善・発展サイクルをまわしていけるよ
うにするための準備期間となる。さらに、モデル校の取組が県下全域に広まるような
仕組みづくりに取り組んでいく。

架け橋期のカリキュラム (保育園・幼稚園・認定こども園) (案)

幼・保

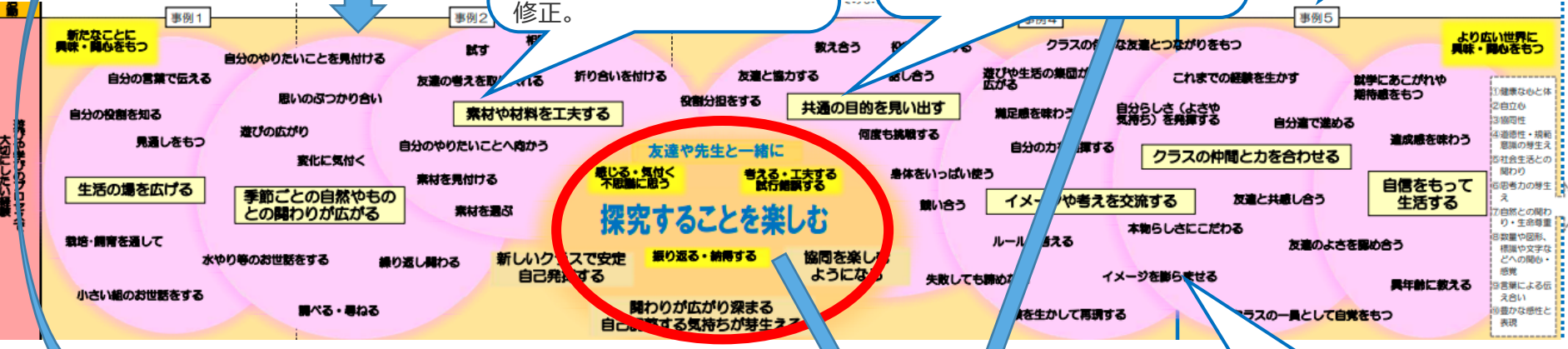
架け橋期のカリキュラム (小学校) (案)

小

小学校入学までにすべて園で経験してほしい7つの経験。この経験をそれぞれの園の年間計画に組み込むようにそれぞれの園の年間指導計画を加筆修正。

小学校はこの7つの経験を生かして、スタートカリキュラムや生活科を中心とした教科等の実施につなげていくようにする。

各園・学校が大切にしたい経験をもとに事例を作成。他園の取組も共有できるように工夫。



カリキュラムの縦軸は、めざす子供像、予想される活動(園)と生活科を中心とした活動(小)、指導上の配慮事項(保育者・教師の関わりや環境構成)、家庭や地域との連携などの項目を共通に設定。

保幼・小ともに「探究」をキーワードに友だちや先生と楽しむことから、自ら課題を発見・解決へ。

「7つの経験」に付随する具体的子供の姿を周りに記載することで、遊びの中での具体的な姿をイメージできるように工夫。